



どうとくだより

富陽小学校

2025.11.21



今回のどうとくだよりは、3年生の実践を紹介します。

教材名は、「ないた赤おに」です。人間と友達になりたい赤鬼と、その願いを叶えるために悪役を演じる青鬼の友情物語です。教材の中から「青おに」の行動を通して「友情」「信頼」について考えました。

授業の終末には、「本当の友達とは、どのような友達か」について、思いを広げたり、話し合いながら考えを深めたり、さらに、自分自身を振り返ることもできました。

教材名『ないた赤おに』

【あらすじ】

村人と仲良くなりたい赤鬼の相談を受けた青鬼は、自分が村で暴れ、赤鬼がそれを助けることで村人からの信用を得るという作戦を考え、赤鬼を説得します。作戦は成功し赤鬼は人間と仲良くなりますが、その日から訪ねてこなくなった青鬼を心配した赤鬼が青鬼の家を訪ねると、そこには「君がこれからも幸せに暮らせるように」と旅に出ることを伝える手紙が残されていました。

【授業のねらい】

友達のことを心から思いやり、自分にできることを精一杯しようとする。



学習後のふり返り

ぼくは、本当の友達とはしたいことばかりをするのではなく、自分の気持ちと相手の気持ちをつなげて考え、それでいいかと考え、そのまでいいかを考えたら相手の気持ちが伝わるから、本当の友達になれると思いました。

本当の友達とは、自分のことばかりではなく相手のことも考えてあげられるのが本当の友達だと思いました。

この話を読んで、赤おには青おにのことを心配していて、青おには赤おにをしんぱいしているのがこの話のいいところだと思いました。これからも友達を大事にしたいです。

助け合いと言ってもそんな一人がぎせいになる助け合いをすると、そのうち一人がいやな気持ちになってしまうから、何度もどちらがいやな気持ちにならないことが本当の友達だと思う。

本当の友達は、青おにみたいに本当の本当にやさしい友達なので、自分じゃなくて友達をしあわせにさせてくれるヒーローのような友達だなと思ったので、本当の友達を一生忘れないようにします。

本当の友達は「困ったら助ける」「助け合う」ということや、いっしょに「協力」することだと思います。わたしも本当の友達と「助ける」「助け合う」「協力」をしていきたいと思います。

本当の友達とは、大親友でやさしいこころをもっており、友達のためなら何でもしてくれる助け合いのできる友達。ぼくはこれから青おにのように大親友でやさしい心をもつていい友達のためならなんでもできる友達になりたい。

本当の友達とは、青おにだと思います。どうしてかというと、青おには自分をぎせいにして大好きな赤おにのことを思っているけど、赤おにはこんなに大好きな青おに対して「なんで自分をぎせいにするんだろう」とそんな気持ちになっていると思うからです。ぼくはこれから青おにのように心をやさしくしたいです。

今日の授業で分かったことは、何かがあったら助け合うのが本当の友達だと思いました。

自分のことより相手を優先したり、友達を助けたり、友達の相談にのったりすることを、今日からしようと思います。

僕は、友達に優しくするということを頑張りたいです。どうしてかというと、相手に優しくすると、相手も他の友達に優しくすることができるからです。

本当の友達とは、自分より相手に幸せになってほしいという関係だと思います。わたしは、青おにのように自分をぎせいにはできないけど、相談にのるくらいならできるから、自分のできるはんいでがんばっていきたいなと思いました。

本当の友達とは、相手を優先したり、助け合ったりすることができる友達だと思います。

今まで本当の友達というのを知らなかつたけど、このべんきょうをして、本当の友達は青おにのように自分はしたくないことでもゆうきをふりしぶって友達のためにがんばって全力で友達をつくすことが本当の友達だと思います。

私はこれから友達いがいでも、今までよりもみんなにやさしくして、思いやりのある自分が本当の友達だと思いました。それに、友達がおちこんでいたり、困っていたらすぐになぐさめてあげたいです。

私は、本当の友達とは、困っていたら助けることだと思います。

本当の友達とは、その友達を自分より大切にしていることだと思います。

僕は、友達は助け合って、自分のことよりも友達をちょっと優先できるのが本当の友達だと思います。友達に相談とかもしてみたらもっと友達になれると思います。

本当の友達とは、友達のために自分が悪者になって友達とはなれてしまっても、友達がしあわせになればいいと思ってくれる友達だと思います。私はこれからも友達となかよくなり、クラスが変わってしまっても、友達をわすれないようになりたいです。